



〈特集〉  
この春は、  
ブータンに  
負けない  
幸福都市の  
ひみつ巡りに  
まいりましょうか

# 新お江戸

# 江戸人が

江戸＝東京は、徳川家康がつくった幸せの風水都市です。江戸の開運を探して、ぶらりと上野寛永寺を歩いてみませんか？ 粋で、洒落た、江戸の人たちに倣<sup>なら</sup>って、今も息づくお江戸の流行発信地を巡ってみませんか？ 老舗の職人技、江戸きもの…おっと、初モノ好きはスカイツリーも見逃せません。さらにはグルメ都市・東京の最新美食店もご案内。春、さあお江戸巡りに出かけましょう。

構成／新居典子、藤田優、山本毅、小竹智子、高木史郎（本誌） 地図／田中デザイン 浮世絵東叡山中堂之図／葛飾北斎（メーテレ〈名古屋テレビ放送〉所蔵） 浮世絵提供／国立国会図書館ウェブサイト 協力／公益財団法人 徳川ミュージアム

序それは家康がつくった

# 運気upの

徳

川家康が幕府を開き、江戸入りを果たしたのが天正18年(1590)。当時の江戸は見渡す限り、湿地帯でした。すでに太田道灌が城を築いていたとはいえ、

石垣もなく芝土手で、松と竹が空しく茂っているばかりでした。家康は居城の選地にあたり、まずは江戸の陰陽師ともいわれた天海に、西は伊豆から、東は下総に至る広大な領地の地層を調べさせたといいます。天海は天台密教の僧侶で、天文、遁甲、方術などの陰陽道の知識を持ち合わせており、家康のはからいで慶長12年(1607)から5年間、京都の天台総本山比叡山を再興しています。家康は、風水に守られた平安京の例にならい、綿密な計画のもと江戸の街をつくったのでした。

まずは、鬼門を封じることが最も重視され、寛永2年(1625)、江戸城のちょうど北東の方向、鬼門にあたる地に、天海が東叡山寛永寺を建立しました。平安京の鬼門鎮護のために比叡山延暦寺を設けたのを模して、東の比叡山を意味する東叡山寛

永寺としました。また鬼門に次いで恐れられる裏鬼門には、徳

川家の菩提寺として増上寺を移します。さらに仏教の力だけでなく、神道の力も忘れませんでした。江戸城の鬼門にあたる湯島に神田神社を移し、裏鬼門には愛宕神社を建立。また、江戸を取り囲むようなかたちで、平安京の守護神として祀られた五色不動を置きます。地球上の5つの元素を色であらわす青、白、赤、黒、黄と、5色の目をもつ不動明王。それらの不動を結んだ線の内側を江戸の内府と呼びました。そして、江戸城と寛永寺の延長線上にある日光東照宮では、家康自身を祀り、自ら神となつて鬼門を守つたのでした。あ

らゆる悪鬼から守る

厳重なバリアをもつ街、江戸。それが大都市・東京の始まりでした。



目黒不動尊



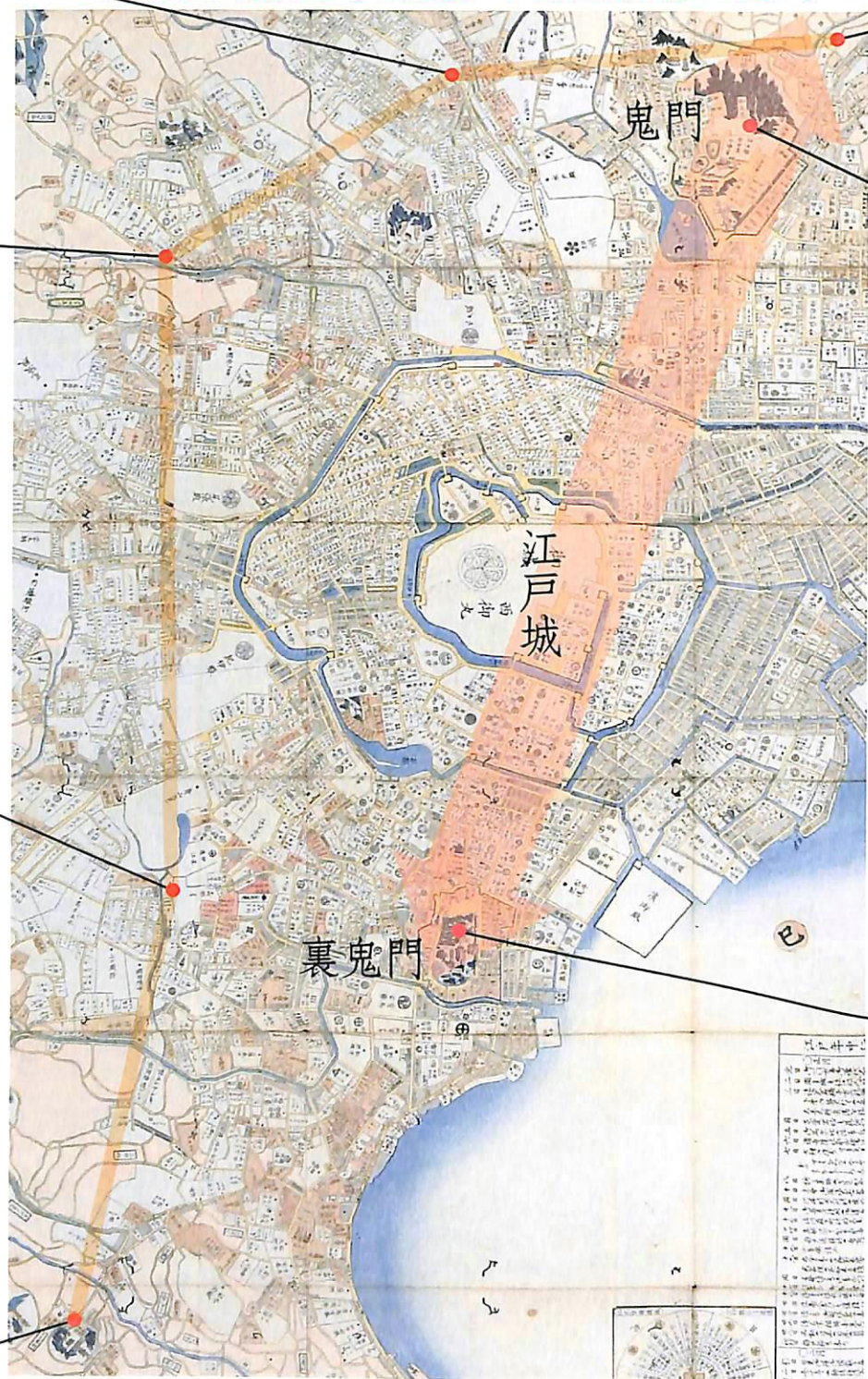
東叡山寛永寺



三縁山増上寺



江戸城を中心に、鬼門・裏鬼門を封じ、五色不動尊に守られた幸福、都市だった!



大江戸古地図(天保版)(早稲田図書館蔵)



目赤不動尊



目白不動尊



目青不動尊



目黒不動尊

## 風水都市計画が

始まりでした

東叡山寛永寺

徳川三代将軍秀忠と天海大僧正との相談で、江戸の鬼門を封じ、徳川家の安泰と江戸庶民の平安を祈る祈禱寺として創設が決まる。3年後の寛永2年(1625)、家光の時代に正式に発足。造営は比叡山延暦寺にならつて行われた(※詳しくは64ページ参照)。東京都台東区上野桜木1-14-11 ☎03-3821-4440

浄土宗大本山増上寺

徳川家の菩提寺として知られ、二代秀忠公、六代家宣公、七代家継公、九代家重公、十二代家慶公、十四代家茂公と、6人の将軍の墓所が設けられている。明徳4年(1393)に浄土宗第八祖西園寺聖一上人により開山(平河町付近)。慶長3年に江戸の裏鬼門にあたる湯島に移転。東京都台東区公園4-7-35 大本山増上寺 ☎03-3432-1431

目青不動尊

(竹園山最勝寺教学院) 麻布谷町の正善寺(観行寺)にあった目青不動尊は、廃寺にもなない、現在は教学院に奉られる。目青不動尊は、天と地、天と地の間にたなびく青い雲の色にまつわる不動尊で、天と地の連絡をしてくださるとして「縁結びの不動」としても信仰される。東京都世田谷区太子堂4-15-1 ☎03-3419-0108

目白不動尊(金乗院)

目白不動尊は、かつて文京区関口駒井町の東叡山浄護院新長谷寺にあったが、戦火で焼失したため、本尊は金乗院に移された。高さ25cmの断崖不動明王は弘法大師作と伝わる秘仏。これに家光公が目白の岩を贈り江戸五街道守護の五色不動のひとつとした。東京都豊島区高田2丁目12-39 ☎03-3971-1654

目赤不動尊(南谷寺)

万行和尚が伊勢国赤目山で不動明王を授けられ、もとは赤目不動尊と呼ばれた。衆生を救うため、この像を持つて諸国を巡り、駒込村の道坂に庵を設けたところ、鷹狩りの途中に立ち寄った家光公から、赤目を目赤と呼ぶようにと命があり、現在の寺地を賜ったとされる。東京都文京区本駒込1-20-20 ☎03-3942-706

目黒不動尊(泰叡山龍泉寺)

開基は1200年前。慈覺大師門下比叡山の最勝のもとに向かう途中、目黒の地で霊夢をみて、夢から覚めた後に像を彫り安置したことに始まる。関東最古の不動霊場で日本最大不動のひとつ。家光がこの地で鷹狩りをしていると愛鷹が行方知れずになり、不動尊に祈願すると鷹が戻つて尊信したという話も残る。東京都目黒区下目黒3-20-26 ☎03-3712-7549

目黄不動尊

(牛久山明王院最勝寺) 目黄不動と呼ばれるところは数か所あり、やや曖昧。最勝寺は、墨田区本所にあったことから目黄不動とされ、家光の説話も残る。不動尊は名僧良弁作と伝わり、大正2年(1913)に現在地に移転した。東京都江戸川区平井1-25-32 ☎03-3681-7857

※参考文献 『江戸の陰陽師』宮元健次

一章 水戸徳川夫妻が  
知られざる  
名所をご案内

誌上  
特別公開！

# 上野寛永寺

ここは  
江戸の  
鬼門を守る  
「幸福」の  
要です

水戸徳川家十五代当主、徳川齊正・貞木夫妻と、寛永寺長脇の浦井正明さんに、寛永寺の非公開ゾーンを案内していただいた。まずは、扉ページの葛飾北斎の浮世絵にもあるように、江戸随一の建物といわれ、多くの参拝者で賑わった根本中堂。その内陣である。当初の建物は慶応4年（1867年）の彰義隊の戦争の際に焼失したが、正面にかかる瑠璃殿（東山天皇御宸筆）の勅額や、境内の手水鉢は戦

火を免れ、創建当時の面影を今に残す。根本中堂中央の大きな厨子に安置されているのは本尊薬師三尊像（国指定重要文化財）。なかでも中尊の薬師如来像は最澄の自作と伝わる秘仏である。

撮影 阿部浩

寛永寺  
根本中堂



# 常憲院殿 (五代綱吉公) 勅額門

「寛永寺は  
京の都を模した  
巨大寺院  
でした」 齊正

# 常憲院殿 (五代綱吉公) 水盤舎



「僧侶の心の  
質の高さは、開山した  
天海大僧正からの  
歴史なのでしょーうね」 眞木

寛永寺長廊の浦井氏の案内で、徳川夫妻が向かうのは徳川歴代將軍御霊廟。寛永寺は徳川將軍家の祈禱所として発足したが、やがて菩提寺も兼ねるようになった。現在の東京国立博物館裏手の寛永寺墓地には、徳川將軍15人のうち6人（四代家綱公、五代綱吉公、八代吉宗公、十代家治公、十一代家齊公、十三代家定公）が眠る。右ページ／常憲院殿（五代綱吉公）勅額門。左ページ／錚々たる大名から寄贈された灯籠の向こうに見えるのが常憲院殿。五代綱吉公の水盤舎。靈廟には一

定の形式があり、二重門、勅額門、鐘樓、水盤舎、井戸屋形、中門、回廊、供所、拝殿、相之間、本殿、仕切り門などからなる「霊」の部分と、唐門、拝殿、中門（鉾抜門）、宝塔からなる「廟（霊）の部分からできている。江戸中期までは、ひとりの將軍のために壮大な建物を造営していたのだ。常憲院殿（綱吉公）靈廟の建築物群も旧国宝に指定された貴重な歴史的建造物だったが、空襲で大部分を焼失。かろうじて焼け残ったものが、ここにある。両ページとも重要文化財。

# 徳川歴代将軍御霊廟

廟内非公開

「ここは  
お墓ではなく、  
仏様の極楽浄土  
なのです」 眞木

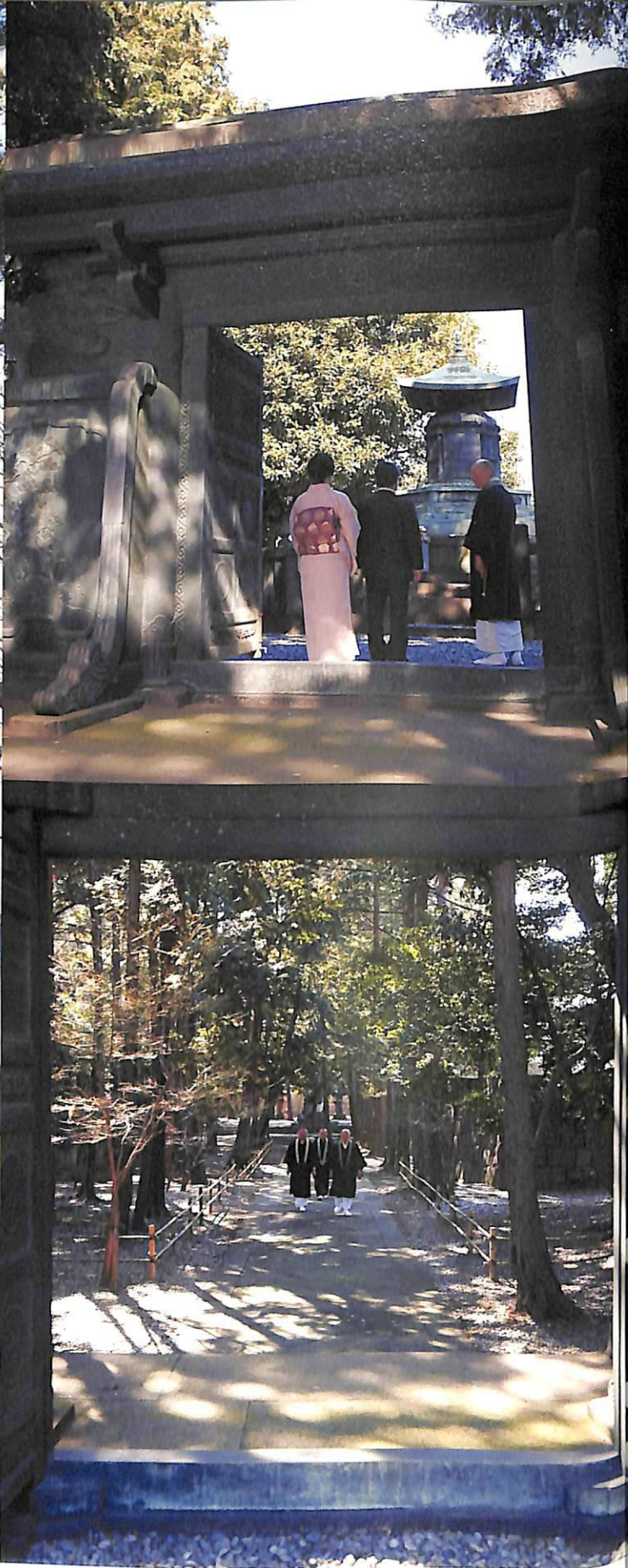
常憲院殿（五代綱吉公）御  
宝塔の鋳抜門の内扉にほど  
こまれた美しい梅の装飾。  
霊廟様式では、宝塔はお墓  
ではなく、塔内に安置され  
て将軍は御本尊の足下で安  
らぎの眠りにつくという考  
え。つまり鋳抜門の内側は  
極楽浄土としてつくられて  
いるので、門扉には松竹梅  
や亀甲繋ぎなどの瑞祥紋が  
ほどこされている。

右上 浦井氏とともに綱吉  
公の常憲院殿の鋳抜門をく  
ぐり、綱吉公の御宝塔に参  
拝する水戸徳川夫妻  
右下 徳川歴代将軍御霊廟  
がある廟内を歩く僧たち  
左 常憲院殿（五代綱吉公）  
御宝塔。家康公をはじめ歴  
代将軍の霊廟は、天海大僧  
正の指導のもとに、天台宗  
の根本聖典である法華経の  
思想に基づいて造営された



とくがわまさ  
水戸徳川家十五代当主、公  
益財団法人徳川ミュージア  
ム理事長 慶應義塾大学商  
学部卒業後、東京海上火災  
保険株式会社に入社。勤務  
を続けながらも、幅広く社  
会・文化活動などに従事

とくがわまさ  
水戸徳川家十五代夫人、徳  
川ミュージアム館長 慶應  
義塾大学経済学部卒業後、  
斉正氏と結婚。出産を挟ん  
だ3年間で学芸員資格を取  
得。根津美術館などで経  
験を積んで、現在は徳川ミ  
ュージアム館長として展示  
の企画立案に携わっている。  
また、震災後は文化財の復  
興に尽力している。



常憲院殿（五代綱吉公）

御宝塔

最後の将軍、  
徳川慶喜が  
謹慎していた

## 「葵の間」

「大政奉還をした慶喜公は、  
実は水戸徳川の出身なのです」斉正

寛永寺には、最後の将軍として知られる十五代将軍慶喜公が謹慎していた「葵の間」と呼ばれる2間続きの部屋がある。慶応4年（1868）2月12日、鳥羽伏見の戦いで朝敵の汚名をきせられた慶喜公は、朝廷に恭順の意を表すため、東叡山寛永寺の輪王寺宮公現法親王を訪ねて謝罪。水戸へ

退去するまでの約2か月間を寛永寺の子院のひとつである大慈院で謹慎した。そして4月11日、無血開城の当日、水戸へ退去した。就任10か月、30歳という年齢で、約260年続いた江戸幕府に終止符を打つ決断をしたときの胸中は、想像を絶します（眞木）



## 今

なお、徳川家宗家の法事は寛永寺で行われており、私たちも供養に参列します。寛永寺の魅力はなんといっても僧侶の心の質の高さではないかと思うのです」

今回、寛永寺の奥の奥を案内してくださった徳川斉正・眞木夫妻はこう言います。それは歴史の中で培われてきた寛永寺の僧侶としての自尊心なのかもしれません。

寛永寺を創建したのは、江戸の陰陽師ともいわれた慈眼大師・天海大僧正です。家康公の江戸入りから始まり、秀忠公、家光公と三代にわたり將軍家に大きな影響力をもち続けていた人物で、江戸の町づくりの初期から

完成に至るまで関与した人物です。学識があることはもちろん、身長は約6尺（180cm）。当時としてはかなりの長身で、しかも108歳の長寿をまっとうしたといわれます。

天海は、寛永寺の建立にあたり、比叡山を江戸に移すことを常に念頭において、ことをすすめました。上野の山の麓に不忍池があるのは、比叡山の麓に琵琶湖があるのと似ているというのが、この地を選んだ理由のひとつだったといわれます。ところが、琵琶湖には厳島や江ノ島と共に、日本の三弁天といわれる竹生島があるのに、不忍池には島がない。そこで中島を人工的に築き、そこに竹生島の辨才天を勧請して不忍池に祀ったのです。さらに、

京都・清水寺から観音像を迎え、舞台造りの寛永寺清水堂を建てました。また京都の方広寺大仏殿に対応して寛永寺大仏殿を。次々に造営された堂塔伽藍はすべて比叡山に倣ったものだったのです。

また、吉野桜を取り寄せて上野を桜の名所に、不忍池には蓮を植えて放生池として、そこは庶民の憩いの場となり、名所江戸百景など浮世絵にも数多く描かれました。

当初は徳川家將軍の祈禱所として創設された寛永寺ですが、やがて菩提寺も兼ねるようになり、全天台を総括する存在として発展を遂げるのです。が、慶応4年（1868）、彰義隊の戦場となったことで、主要な建造物は

焼失。明治維新後には境内のほとんどが新政府に没収されたのです。

現在、広大な上野公園の中には、東京国立博物館や美術館、それから東京文化会館などの文化施設が点在し、上野動物園や不忍池などもあります。かつて江戸時代は、これらの敷地（およそ30万坪）すべてが、なんと東叡山寛永寺の境内だったのです。

ご存知でしたか？ 上野公園の階段を上がってほとく清水堂があります。寛永寺の境内だったことを意識せずに歩いていると見逃していた江戸の景色。歌川国貞の「姫君上野清水御花見之図」と重ねて見えてきます。

## 上野界限には寛永寺ゆかりの名所があちこちに



清水観音堂

国指定重要文化財

清水の舞台が、ここに！  
京都の清水寺を模した舞台造りのお堂。現存する堂宇の中では最も古く、寛永8年（1631）に天海大僧正により増築の上に建立された。本尊は恵心僧都作といわれる千手観音で京都清水寺から勧請された秘仏。観音堂の裏手には、俳人秋色女が詠んだ「井戸はたの桜危なし酒の酔」で有名なしだれ桜「秋色桜」が美しく咲く。台東区上野公園1-1-29 ☎03・33821・47



旧寛永寺五重塔

国指定重要文化財

上野動物園にそびえる塔。寛永8年に佐倉城主土井利勝が寄進した五重塔。寛永16年3月に焼失したが、同年11月には再建されたという。塔の高さは、地面から先端の宝珠までが36m。三間五層の一番上にあたる第五層が銅板葺で、ほかは瓦葺。第一層には心柱（大日）を中心として釈迦、薬師、阿弥陀、弥勒の四方四仏が祀られて、現在は上野動物園の敷地内にあるため、東京都に寄託されている。



上野大仏

（ハゴダ）

もう落ちない、から合格祈願の大仏に！  
寛永8年に建立した約5mの漆喰の大仏は、正保4年（1647）の地震で倒壊。その後、木喰上人が約7mの青銅の大仏を復興し、元禄には輪王寺宮公法親王が、大仏殿を建立した。その後、関東大震災で再び首が落ち、ついに第二次世界大戦には胴体部分が軍需品として徴用されてしまった。現在は大仏のお顔だけがバゴダの脇に安置されている。



開山堂

（両大師）

庶民に信仰される  
東叡山の開山である慈眼大師天海大僧正を祀るお堂として、正保元年（1644）に建立。その後、天海大僧正が尊崇した元三慈恵大師良源大僧正も祀りしたこと、から「両大師」と呼ばれ、庶民に広く信仰されてきた。天海大僧正が、元三大師画像（伝民部法眼筆で都の重宝）に子授け祈願をして家綱が誕生したための子授け大師としても信仰される。台東区上野公園14-15 ☎03・38214050



不忍池辨天堂

琵琶湖竹生島になぞる  
比叡山の麓に琵琶湖に浮かぶ竹生島の宝蔵寺辨才天を勧請するために、天海大僧正が水谷伊勢守勝隆の支援を得て不忍池に中之島を築き、弁天堂を建立。寛永元年（1624）、当初は橋も架けず、船で往復したという。大正時代には竜宮門も建てられたが戦火で焼失。昭和33年（1958）に現在のお堂を再建した。桜や蓮の花咲く季節が格別に美しい。台東区上野公園2-1 ☎03・38214638

